

協会記事

評議員会（平成14年度第1回）

平成14年5月25日（土）14時から14時45分、当協会会議室において開催された。21名の評議員中出席者8名、委任状提出者10名、計18名により定足数15名の本会は成立した。ほかに執行部側から会長以下11名の役員が出席した。

佐藤会長の開会宣言に続き、議長に高村弘毅評議員が選出され、議事録署名人に下鶴大輔、小玉喜三郎両評議員が指名された。

議事に入り、最初に各委員長からそれぞれの委員会の活動状況並びに今後の計画について報告がされ、これらについて評議員から意見・質問があり、活発な討論がなされた。

次に平成13年度事業報告および決算報告がなされ、また業務・会計監査の結果、問題なかった旨報告され、了承された。

さらに平成14年度事業計画および予算が提案され、認められた。

最後に小林 勇、木村敏雄両会員を名誉会員に推薦する提案があり、満場一致で承認された。

以上で議事を終り、議長は閉会を宣言した。

平成14年度（第123回）通常総会

平成14年5月25日（土）14:00から約30分、当協会講堂において総会が開催された。

正会員出席者36名、委任状提出者422名、合

計458名（定足数は定款の規定により421名以上）をもって本総会は成立した。

佐藤 久会長の開会宣言に続き、定款の規定により同会長が議長に選出され、議事録署名人として佐藤 正、田邊 裕両会員が指名された。

議事案件に入る前に、佐藤議長から前期総会から今期総会までの間の会員の異動について報告があり、この間に逝去された会員（10名）に対し、全員黙祷を捧げ哀悼の意を表した。

第1号議案：平成13年度事業報告並びに収支決算承認の件

嶋 庶務担当理事から平成13年度の事業について、西田経理担当理事から決算概要および経理の現状について、また大竹監事から監査の結果についてそれぞれ報告があった。そのあと質疑応答があり、全会一致で本案を承認した。

第2号議案：平成14年度事業計画並びに収支予算承認の件

嶋 理事から平成14年度の事業計画の概要、西田理事から収支予算について説明があり、審議の結果、全会一致で本案を承認した。

第3号議案：名誉会員の推薦の件

佐藤会長から小林 勇、木村敏雄両会員を名誉会員に推薦する旨の提案と、嶋 理事から両会員の業績紹介があり、全会一致で本案件を承認した。

以上により議事を終了し、14時30分議長が閉会を宣言した。

平成13年度事業報告書

（平成13年4月1日～平成14年3月31日）

1. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進することを目的とする。

2. 事業内容

（1）公益事業

講演会および地学見学会の開催

地学に関する学術の交流と普及を目的として、

講演会および見学会を開催した。

ア．定例の講演会および見学会

i) 平成13年5月19日（土）春季講演会（当協会講堂）

「数値化された地図の重ね合わせ」

講演者 日本大学 野上道男

ii) 平成12年11月10日（土）秋季講演会（当協会講堂）

「砂粒の年代からみた日本列島の地質」

講演者 国立科学博物館 齋藤靖二

「日本最大の恐竜“鳥羽竜”とその産出意義」

講演者 国立科学博物館 富田幸光

iii) 平成 13 年 10 月 19 日(金)見学会

見学地：伊豆大島

テーマ：伊豆大島の噴火史と 1986 年噴火を振り返る

案内者：東京都立大学 鈴木毅彦，大石雅之
イ．特別企画の見学会

ii) 平成 13 年 11 月 11 日(日)第 4 回「地学を楽しむ会」

テーマ：秩父盆地の地形と火山灰をみる

内容：尾田蒔丘陵のテフラ，捏造問題にゆれる遺跡群，荒川の河岸段丘など

案内者：東京都立大学 鈴木毅彦

iii) 平成 13 年 6 月 8 日(金)～6 月 15 日(金)
第 4 回海外巡検「イタリアの火山噴火と遺跡
エトナ・ストロンボリ・ポンペイ」

見学対象：活動中の火山と古代都市の遺跡

案内者：群馬大学 早川由紀夫

iv) 平成 14 年 1 月 13 日(日)～20 日(日)

第 5 回海外巡検「中国西南恐竜化石の見学」

見学対象：四川省自貢の恐竜博物館，雲南省の恐竜化石産地，昆明自然博物館など

案内者：国立科学博物館 齋藤靖二，富田幸光

ウ．上記に関連し行事委員会を 1 回開催した。

地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を目的とした通常号と，最新の話題や成果を取り上げた特集号を出版した。

地学雑誌を年 6 回(110 巻 2 号から 111 巻 1 号まで)，定期(偶数月 25 日)に発行し，そのうち 1 号(110 巻 6 号)を編集委員会の企画による特集号“地震災害を考える 予測と対策”とした。

編集委員会は普通号について 11 回，特集号について 5 回開催した。

地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所(旧地質調

査所を含む)発行の地質図幅等出版物を受託頒布し，地質図利用者の便宜を図った。地質図幅の販売数は 5 月からの販売方法の変更により，かなり減少した。

日本地学史の編纂

日本地学史編纂委員会は，平成 13 年 6 月 15 日，9 月 14 日，11 月 25 日，平成 14 年 1 月 15 日および 3 月 20 日の 5 回開催し，それぞれ執筆状況および内容の検討を行った。今年度は，「日本地学の展開 その 2(大正 13 年～昭和 20 年)」が地学雑誌 110 巻 3 号(平成 13 年 6 月発行)に掲載され，引き続き「日本地学の展開 その 3」を執筆中である。

地学に関する調査・研究費助成

当協会が適当と認める研究・調査を助成し，地学の発展に寄与することを目的としている。

13 年度は会員又は会員が加わっている研究グループを対象に，地学に関する研究・調査 5 件，および国内で開催される国際研究集会 4 件，総額約 410 万円の助成を行った。

図書室の整備

図書室補助員により図書雑誌の整理を行った。前年度に続き，地学雑誌バックナンバーの CD-ROM 化を実施，複製を希望者に頒布している。本年度は 4 枚目を作成した。また，ホームページで目次の検索ができるように引き続きインデックスの入力を行った。

広報活動

13 年度はホームページの内容，体裁を一新し，さらに必要に応じ順次内容を更新している。また今後のあり方についての検討を行った。広報委員会は年 3 回開催した。

地学クラブ講演会の支援

地学クラブは，地学の発展を目的として 9 回の講演会(第 179 回～187 回)を開催し，協会はこれに対し全面的な支援をした。企画世話人会(講演テーマ，講演者決定等)は年 2 回開催した。

(2) 収益事業(会館特別会計)

公益事業を支援するために，収益事業として引き続き地学会館ビルの一部を賃貸している。13 年 5

月から若干の賃貸料の値上げを実現できた。

工事に関しては、経年劣化の進んだ屋上防水の改修工事を実施した。

(3) その他委員会等

地学協会情報システム検討委員会

当協会の情報システムのあり方を考えるため、佐藤 正理事（副会長）を委員長とし、編集、行事、広報、図書各委員会からの代表を集め臨時委員会を組織した。電子メールを利用した意見交換の後、委員会を開き、答申を作成した。

名誉会員推薦委員会

名誉会員を推薦するため会長、副会長、顧問

および理事2名から成る臨時の委員会を組織し、候補者を決め理事会に推薦した。

その他定款に基づく会議の開催

通常総会（1回）：平成13年5月19日

評議員会（3回）：平成13年5月19日（第1、2回）、11月10日

理事会（8回）：平成13年5月9日、5月19日、6月5日、7月16日、9月17日、11月19日、平成14年1月28日、3月25日

以上の会議を開催した。

収支計算書 総括表

平成13年度 第123期

（自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日）

（単位：円）

科 目	合 計	一般会計	会館会計
I. 収入の部			
基本財産運用収入	18,520	18,520	0
会 費 収 入	3,665,000	3,665,000	0
事 業 収 入	12,794,879	12,794,879	0
会 館 収 入	119,404,957	0	122,324,811
雑 収 入	262,586	78,358	184,228
敷 金 収 入	1,157,112	0	1,157,112
繰 入 金 収 入	0	46,098,400	0
当期収入合計	137,303,054	62,655,157	123,666,151
前期繰越収支差額	90,163,588	23,528,551	66,635,037
収 入 合 計	227,466,642	86,183,708	190,301,188
II. 支出の部			
事 業 費	38,509,336	39,969,263	0
会 館 事 業 費	46,854,169	0	46,854,169
管 理 費	14,776,233	16,236,160	0
その他の支出	2,947,077	2,947,077	0
固定資産購入支出	210,000	210,000	0
借入金返済支出	23,771,366	0	23,771,366
繰 入 金 支 出	0	0	46,098,400
当期支出合計	127,068,181	59,362,500	116,723,935
当期収支差額	10,234,873	3,292,657	6,942,216
次期繰越収支差額	100,398,461	26,821,208	73,577,253

正味財産増減計画書 総括表

平成 13 年度 第 123 期

(自 平成 13 年 4 月 1 日 至 平成 14 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	会館会計
I. 増 加 の 部			
資産増加額	13,388,505	6,446,289	6,942,216
負債減少額	20,000,000	0	20,000,000
増加額合計	33,388,505	6,446,289	26,942,216
II. 減 少 の 部			
資産減少額	29,268,410	6,476,891	22,791,519
負債減少額	1,157,112	0	1,157,112
減少額合計	30,425,522	6,476,891	23,948,631
当期正味財産増加額	2,962,983	- 30,602	2,993,585
前期繰越正味財産額	212,807,105	49,686,655	163,120,450
期末正味財産額合計	215,770,088	49,656,053	166,114,035

貸借対照表 総括表

平成 13 年度 第 123 期

(自 平成 13 年 4 月 1 日 至 平成 14 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	会館会計
I. 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産	30,309,841	117,217,811	126,162,678
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産	10,000,000	0	10,000,000
(2) その他の固定資産	10,291,213	305,330,486	315,621,699
資 産 合 計	50,601,054	422,548,267	451,784,377
II. 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債	945,001	63,640,558	43,220,583
2. 固 定 負 債	0	192,793,704	192,793,704
負 債 合 計	945,001	256,434,262	236,014,289
III. 正味財産の部			
正 味 財 産	49,656,053	166,114,035	215,770,088
負債及び正味財産合計	50,601,054	422,548,297	451,784,377

科 目	金 額		
Ⅱ．負 債 の 部			
1．流 動 負 債			
1 年以内返済予定の長期借入金	20,000,000		
第一勸業銀行			
未払金未払法人税，地球科学図等頒布代金	12,610,262		
前受金 会館賃貸収入分	9,966,484		
預り金 職員に対する源泉所得税他	643,839		
		43,220,585	
2．固 定 負 債			
長期借入金 第一勸業銀行	100,000,000		
預り敷金 第一建築サービス(株)	59,678,904		
長期修繕引当金	33,114,800		
固 定 負 債 合 計		192,703,704	
負 債 合 計			236,014,289
正 味 財 産			215,770,088

平成 14 年度事業計画書

(平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日)

1. 事業方針

地学を奨励し，地学における専門分野の連携を図り，もって総合的な地学の進歩普及を推進することを目的とする。

2. 事業内容

(1) 公益事業

講演会および地学見学会の開催

地学に関する学術の交流と普及を目的として，講演会および見学会を開催する。

ア．定例の講演会および見学会

講演会は春季および秋季に各 1 回，見学会は夏季或いは秋季に 1 回開催する。また，自然史学会連合の活動を後援する。

イ．特別企画の見学会

一般人，特に比較的若い人々を対象に，地学について興味を持ってもらうため，「地学を楽しむ会」を開催する。

見学会は，国内，国外の地学的に興味のある地点・施設を見学，また専門家による話を聞く。

実施時期：定例講演会 5 月と 10 月

見学会 夏季或いは秋季

特別企画見学会 複数回

事業費：総額 181 万円

内訳：定例の講演会開催，見学会開催等 51 万円。

特別企画見学会 130 万円

地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を目的とする。また，その年の地学界の問題点などを取り上げて特集号として出版し，さまざまな分野について会員相互の理解を深める。

地学雑誌を年 6 回，定期(偶数月 25 日)に発行し，そのうち 1 号を編集委員会の企画による特集号とする。平成 14 年度は 111 巻 2 号から 112 巻 1 号を発行する。編集委員会は年 11 回開催するほか，企画特集号編集委員会を必要に応じて開催する。

地学雑誌出版費：総額 1,865 万円

内訳：編集費 305 万円，印刷製本費 1,458 万円，

地学雑誌発送費 102 万円。編集用パソコンはリースで対応する。

地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平

成 13 年 5 月 1 日に契約された「地球科学図および地球科学データ集の有料頒布業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター（旧工業技術院地質調査所）発行の地質図幅等出版物を受託頒布し、地質図利用者の便宜を図る。

同センターから出版された地質図、および地学関係出版物の一般小売、および書店等に対する卸販売をする。

日本地学史の編纂

日本地学史の刊行を目的とし、日本の地学の発展過程を多角的、具体的に解明する。取扱う項目は地理・地質・火山・地震・地球物理・地球化学・測地・気象・海洋・陸水などで、その時代的範囲は明治以前から昭和 35（1960）年までとする。日本地学史編纂委員会を構成し、年 3～4 回委員会を開催する。

委員会費：45 万円

地学に関する調査・研究費助成

当協会が適当と認める研究・調査を助成し、地学の発展に寄与することを目的とする。

助成対象は会員又は会員が関わっている研究グループとし、地学に関する研究・調査、および国内で開催される国際研究集会に対して助成を行う。

助成対象選考委員会は、応募者の中から助成対象候補を選考し、理事会の承認を受けて、調査・研究の助成金、国際研究集会援助金および貸付金等の配分をする。

調査研究助成金総額：420 万円

図書室の整備

図書製本、図書整理の継続、および経年劣化

の激しい創立当初からの地学雑誌バックナンバーを順次 CD-ROM 化し、永年保存するとともに、希望者に対する有料頒布を行う。また、ホームページで地学雑誌（協会報告）の目次が検索できるようにインデックスの入力を継続して行う。

図書委員会費総額：140 万円

内訳：図書製本、図書整理費 53 万円、CD-ROM 製作費 60 万円、インデックス入力費 15 万円、パソコン整備費 12 万円（パソコン本体等はリースで対応する）

広報活動

協会の情報化の促進と、ホームページの内容の充実を図る。このため、レンタルサーバー利用による場合の試行と検討を行う。

広報委員会費：50 万円

地学クラブ講演会の支援

地学クラブは、地学全般の新しい発見や研究の動向等に関する講演会を開催し、会員の知識向上を目指すことを目的としている。この地学クラブの活動に対して協会は支援を行う。

講演会は年 10 回程度開催する。講演会の演題と講演者を定めるため、年 4 回程度世話人会を開催する。

地学クラブ費：45 万円

(2) 収益事業（会館特別会計）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業

当協会の公益事業を安定的かつ継続的に行うため、収益事業（会館特別会計）から一般会計へ資金的支援を行う。そのため、引続き地学会館ビルの一部を賃貸する。

また、引き続き必要に応じた、または長期計画に則った改修を行っていく。

収支計算書 総括表

平成 14 年度 第 124 期

(自 平成 14 年 4 月 1 日 至 平成 15 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	会館会計
I . 収 入 の 部			
基本財産運用収入	30,000	30,000	0
会 費 収 入	4,100,000	4,100,000	0
事 業 収 入	8,500,000	8,500,000	0
会 館 収 入	119,618,000	0	122,404,000
雑 収 入	300,000	150,000	150,000
繰 入 金 収 入	0	46,200,000	0
当期収入合計	132,548,000	58,980,000	122,554,000
前期繰越収支差額	100,398,461	26,821,208	73,577,253
収 入 合 計	232,946,461	85,801,208	196,131,253
II . 支 出 の 部			
事 業 費	40,318,000	41,711,000	0
会 館 事 業 費	46,087,000	0	46,087,000
管 理 費	16,818,000	18,211,000	0
その他の支出	4,360,000	4,360,000	0
固定資産購入支出	200,000	200,000	0
借入金返済支出	23,213,000	0	23,213,000
繰 入 金 支 出	0	0	46,200,000
予 備 費	2,000,000	1,000,000	1,000,000
当期支出合計	132,996,000	65,482,000	116,500,000
当期収支差額	- 448,000	- 6,502,000	6,054,000
次期繰越収支差額	99,950,461	20,319,208	79,631,253